

月曜日にはウェルカムパーティ、木曜日にはバンケットが開かれ、出席者が招かれた。ウェルカムパーティでは清水統計数理研究所所長、バンケットでは廣田榮治 総合研究大学院大学学長が来られ、挨拶をされた。どちらのパーティも堅苦しい雰囲気ではなく、用意されたおいしい料理（バンケットではマグロの兜焼きが出て、“信じられない”と目をつぶしている外国人たちもいた。）を食べ、ビール・ワインなどを飲んで、全員がよい気持ちになって会話も弾んだ。私にと

っては、個人的に話すのは初めての人が多く、論文を通してしか知らない研究者たちと直接話せたということは、貴重な体験であった。

今回のシンポジウムでは、統計数理研究所の田辺氏をはじめとして、同研究所の水野氏、土谷氏、伊藤氏などの委員の方々の多大の熱意と努力により、参加者は有意義な5日間を過ごすことができたと思う。主催者の方々に心より感謝の意を表したい。

筑波大学大学院新専攻発足



斯波 恒正 (筑波大学社会工学系)

筑波大学大学院社会工学研究科（茨城県つくば市）では来年（97年度）から、現在の3専攻に新専攻を加えて4専攻にし、新体制でスタートします。（下表）

ここでは大学設置審議会ではほぼ承認された新専攻「計量ファイナンス・マネジメント」について説明します。他の3専攻については下記の事務室まで。この専攻ができる契機となったのは94年の日経ビジネス誌の記事です。そこでは筑波大学の社会工学類（本研究科の「学部」にあたる組織）が計量・情報ファイナンス分野の拡充計画を持っていることを報道してくれました。新専攻は、それが博士課程の研究科で実現したものです。

新専攻の4つの領域は：(a)数理ファイナンス、(b)リスク管理、(c)マネジメント・会計、(d)計量経済学・統計学・行動科学、ですが核となるのはファイナンスとそれを支える統計・計量手法です。新専攻の特長をあげるなら

○柔軟な指導体制：5年一貫の博士課程と言っても、修士号を取って就職することも可能です。また1・2年次を過ぎたら、学位論文に向けた指導が中心となります。

○整った教育・研究環境：元々、本研究科は工学系ですので優れた計算機環境に恵まれています。加えて新

専攻ではファイナンス分析用のデータベース、ソフト、計算機環境を現在整備中であり、今年度中に完成します。

○教授陣：新専攻の最大の特長は研究熱心で実践経験豊かな教授陣です。ファイナンス関係で研究指導にあたるスタッフには、岸本 一男、岸本 直樹、庄司 功、高橋 正文、竹原 均ほかがおり、日本OR学会、日本ファイナンス学会、日本金融・証券計量・工学学会、日本応用数理学会、日本統計学会、理論・計量経済学会などの学会運営や学会誌編集に携わるなど、活発な学会活動を行っています。また本専攻には日立製作所、三菱総合研究所、MTEC研究所、日興リサーチセンター、日興証券、山一証券、住友信託銀行、住友生命など企業に籍を置いた経験のある、ファイナンスの実際を熟知しているスタッフがいます。このように計量ファイナンス・マネジメント専攻は、国際的にアカデミアで卓越した研究業績をあげる強い現実志向を持った専攻です。本専攻は大学院レベルの計量ファイナンスを真剣に勉強してみたい、と考えている方々に絶好の機会を提供します。詳しいことについては〒305つくば市 筑波大学社会工学研究科 事務（電話0298-53-5170）まで。

現在の専攻名	来年度の専攻名	来年度の各専攻の主要領域
計量計画学専攻 経営工学専攻 都市・地域計画学専攻	社会経済システム専攻 システム情報数理専攻 都市・環境システム専攻 計量ファイナンス・マネジメント専攻	経済学 情報科学・OR・数理計画・確率過程 都市・環境関係 上記を参照